

第77回 浜松市民スポーツ祭 ボート競技



日 時：令和5年9月3日（日）

開会式：8時00分
※第3艇庫前で実施

会 場：浜松市佐鳴湖漕艇場

主 催：浜松市

共 催：公益財団法人浜松市スポーツ協会

主 管：浜松市ボート協会

大会役員

大会実行委員長 沼田佳生

競技役員

競漕委員長 浅沼弘之

競漕委員 小栗正人

審判長 鈴木和吉

審判員 田中真樹

長谷川慶和 松下 博 鈴木 智

藤田真穂 三浦有加 吉澤 賢 長谷川啓子

高部正光 花崎武彦 山本哲也 本間 剛

山崎武敏 萩原康治

記録委員 鈴木政晴 望月克真 松本貴光 福島都代

水路委員 山本幸生 金子善隆 上西智紀 倉田育悦

放送委員 藤田達弘 植田潤平 小杉佳子 浜松 BC 佐鳴会

配艇委員 山下公平 鈴木基弘 野田幹太 越智千紗都

補助委員 浜松北高 浜松西高 浜松湖南高 浜松大平台高

入野中学 浜松 BC 佐鳴会 静岡県ウォータースポーツ協会

<表彰について>

今大会は「浜松市民スポーツ祭」として、各種目の1～3位について表彰を行います。表彰式は、小学生・一般の部は昼休み、中・高校生は全レース終了後に行います。放送にて連絡するので、入賞した団体の選手は指示された場所へお集まりください。

【大会にあたっての注意事項】

1 熱中症対策・感染症対策について

- ① レース前の健康観察を確実にを行い、体調がすぐれない場合はレース出場を中止するなど、適切な対応をするようにしてください。
- ② 感染症対策でマスクを着用する場合も、アップやレース時などの運動をする際は外して行うなど、適切な着用をするように心がけてください。特に小学生や中学生は、監督やコーチから様子を見て声かけをお願いします。
- ③ 帽子をかぶる、こまめに水分補給をするなど、熱中症防止に努めてください。レース終了後の健康観察を確実にお願いします。
- ④ 第1艇庫（管理棟）に冷房の効いた医務室を設けるので、体調がすぐれない場合はすみやかに本部まで御連絡ください。また、会場の各所に消毒液も設置してありますので、適宜御使用ください。

2 レースについて

- ① 巻末の航行ルールをよく読み、接触等に十分注意するようにお願いします。
- ② 「審判長注意」をよく読み、ルールや時間を守って安全に、お互いが気持ちよくレースに臨めるように心がけましょう。
- ③ 何かトラブルが生じた時は、近くの審判や大会スタッフにすみやかに相談し、指示を受けてください。特に発艇時刻に遅れそうな時は、必ず申し出てください。
- ④ レース終了後は水上でのクールダウンは行わず、すみやかに栈橋へ戻るようにお願いします。
- ⑤ 栈橋の使用については、航行ルールの説明に従ってください。
- ⑥ 駐車場の艇置場からの出艇は第3艇庫内を通り栈橋へ、戻る際は第2艇庫北側の芝生を通して駐車場方向へ抜けるようにお願いします。（高校新人一次と同様）

【参加団体の待機場所配置】



審判長注意

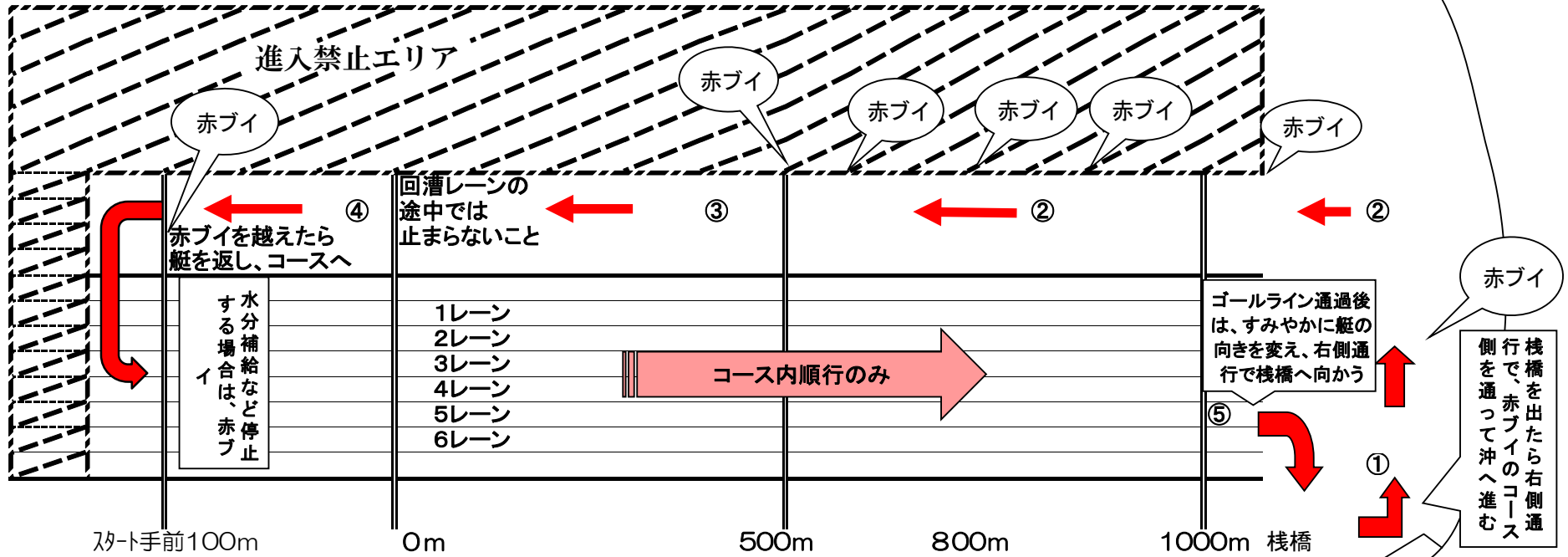
競漕規則より、おもなものを取り上げる。各団体で事前に周知しておくこと。

- 1 安全のために、すべてのレース艇はバウボール、ヒールロープを取り付けること。
- 2 出漕するクルー全員は、救命具（ライフジャケット・ライフポーチ等）を着用すること。
ただし、レース時および練習水域においては常に救助艇の監視下にあるため、一般・高校生については着用は各チームの判断とし、小・中学生については全員必ず着用すること。
なお、落水の際は即救助する。また、予備の救命具については必要ないものとする。
※本大会独自ルール
- 3 クルーは統一されたユニフォームを着用すること。また、出漕するクルー全員は、あらかじめ届け出た、クルー内で統一されたブレードカラー、デザイン、マークのオールを使用しなければならない。
- 4 舵手の最低体重は男子種目 55kg、女子種目 50kgとし、それを満たさない場合は艇内の最も近い場所に最大 15kg のデッドウェイトを置いて出漕することができる。ただし、中学生、オデッセイ種目については規定を設けない。
- 5 舵手計量は、出漕種目ごとに各自の最初のレースの2時間前から1時間前の間に行う。ただし、中学生、オデッセイ種目については行わない。
- 6 クルーメンバーの変更、棄権、ユニフォーム・ブレードの不統一などは、そのクルーの大会最初のレース発艇定刻1時間前までに大会本部に届け出ること。
※本大会については「口頭」での届け出とする。
- 7 回漕クルーは航行ルールを守り、レースの100m手前からレース通過まで停止しなければならない。また、スタートライン、フィニッシュラインの延長線上で停止してはならない。
- 8 次のレースに出漕するクルーは、発艇員からの呼び込みに従って割り当てられたレーンに入る。そして、発艇定刻2分前までに所定のスタート位置に着かなければならない。
- 9 やむを得ない理由により遅延するクルーは、あらかじめ最寄りの審判員に申し述べ、審判長の許可を得なければ失格とする。
※「失格」…対象となったクルーは、レースに参加できない。そのクルーのメンバーについても、その大会の出場資格を失う。順位はつかない。
- 10 発艇（スタート）の合図は、バウナンバー順に出漕クルーの名前が呼ばれ（ロールコール）、次に「attention（アテンション）」の予令後、明瞭な間において発艇旗が掲げられ、その後「go（ゴー）」の発艇（スタート）号令と同時に発艇旗が振りおろされる。

※発艇旗は信号の場合もある。漕手は号令が聞き取りにくい場合もあるため、旗が動く、信号が変わる瞬間に発艇（スタート）すること。

- 1 1 同一競漕で2度不正スタート（回漕中に警告を受けた場合は1度）を犯したクルーは、その競漕から**除外**する。
※「除外」…対象となった（レッドカードを受けた）クルーは、それ以降のその種目のすべてのレースに参加できない。順位はつかない。
- 1 2 レース中、各クルーは自己のレーンを漕行しなければならず、他のレーンに侵入し、接触または妨害してはならない。
- 1 3 レース中、クルーが相手レーンに侵入し、接触・妨害など自己を有利にする可能性がある場合には、主審により白旗にて警告が与えられる。ただし、進路・操舵に関する指示は与えられない。
※本大会では、危険を回避するために、指示を与える場合がある。
- 1 4 レースに参加した全艇がフィニッシュラインに到達した後、クルーからの異議申立もなく、そのレースが正常に行われたと認められたときは、主審は遅滞なく白旗を掲げて、その旨を全クルーと判定員に知らせなければならない。各クルーは、白旗が掲げられるまでフィニッシュエリア内に留まっていなければならない。
- 1 5 いかなるクルーも、定員を欠いてレースに参加することはできない。
※本大会では安全のため、落水があった場合は救助するものとする。
- 1 6 クルー関係者は、次にあげる行為を行ってはならない。
 - (1) レースに参加するために出艇する艇内に無線通信機や携帯電話機等の通信機器類を持ち込むこと
 - (2) 水の自然物性・水質または水と船体の境界面の物性を変えるような物質または構造の使用
 - (3) 各種検査、検量、テストの拒否、妨害、陥れ
- 1 7 すべての競技者は公正に競技し、競技参加者と大会役員、競技スタッフ等に敬意をもって接しなければならず、レース・スケジュール通りにスタートし、水上でも陸上でも、大会役員の指示に従わなければならない。

航行ルール (通常練習時)



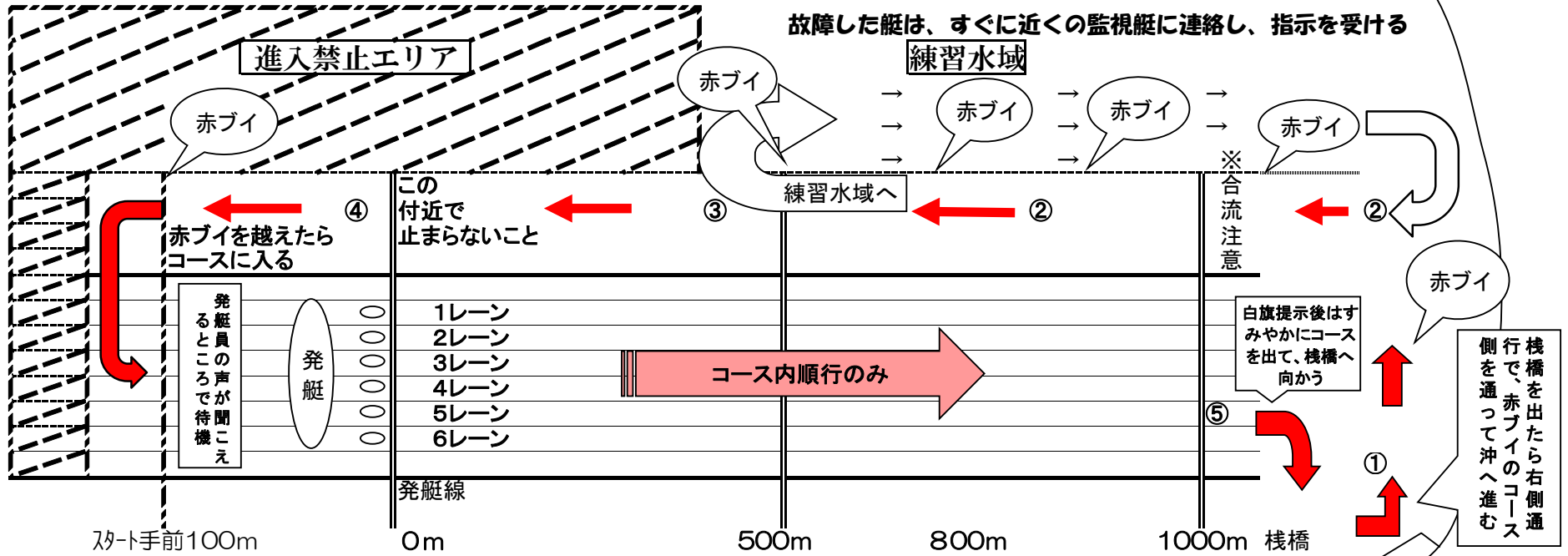
練習時における航行の注意事項

- ① 出艇後は、右側通行で赤ブイのコース側を沖へ移動
- ② 後方から来る艇に気を付け、境界となる赤ブイを越えないようにスタート方向へ向かう
- ③ 回漕レーンでは、速い艇はコース側、遅い艇、ドリルなどを行う艇は赤ブイ側を航行する
- ④ 赤ブイをこえたところで漕ぎやめること。奥へは行かない
水分補給など休憩をする場合は、赤ブイの外側で、コースに入る前にとる
- ⑤ 速い艇は1レーン側、遅い艇は6レーン側を航行する。また、ダウンをして上がる際には5・6レーンを航行して栈橋へ向かう

※ 使用レーンについて
コースの1～6レーンを使用する。0レーンはモーター専用

栈橋は、出艇を優先する。帰艇する艇は、沖で出てくる艇に進路をゆずって待機する

航行ルール（レース時） ～レース終了まで



故障した艇は、すぐに近くの監視艇に連絡し、指示を受ける

練習水域

進入禁止エリア

赤ブイ

赤ブイ

赤ブイ

赤ブイ

赤ブイ

赤ブイ

赤ブイを越えたら
コースに入る

この
付近で
止まらないこと

練習水域へ

※合流注意

白旗提示後はすみやかにコースを出て、棧橋へ向かう

棧橋を出たら右側通行で、赤ブイのコース側を通って沖へ進む

コース内順行のみ

発艇員の声が聞こえる
ところで待機

発艇

1レーン
2レーン
3レーン
4レーン
5レーン
6レーン

発艇線

スタート手前100m

0m

500m

800m

1000m

棧橋

レース時における乗艇の流れ

- ① 出艇後は、右側通行で赤ブイのコース側を沖へ移動
- ② 練習水域の艇に気をつけ、境界となる赤ブイを越えないように、スタートへ向かう
- ③ スタートに向かう艇は、500m付近の赤ブイを越え、さらに直進
練習水域へ向かう艇は、500m付近でコースから離れるように、赤ブイでUターンする
- ④ 発艇線をこえたら、マイクス100mまで進み、赤ブイの外側からコースに入り、発艇の後ろで待機
- ⑤ ゴールしたら、すみやかにコースを出て、出艇する艇に気をつけて棧橋につける
クールダウンは水上では行わない

※ 使用レーンについて
コースの1～6レーンを使用する

放水路

帰艇

出艇

出艇

艇庫

北高 棧橋

佐鳴湖漕艇場
駐車場＝大会時は
大会関係者のみ

大会初めの出艇のみの時、決勝レース後の帰艇のみの時など、状況に応じてすべての棧橋を出艇または帰艇とする

|